
ディケンズ・フェロウシップ日本支部
The Japan Branch of the Dickens Fellowship

令和4年度秋季総会プログラム
Annual General Meeting 2022 Programme

日時：2022年10月8日（土）
Date: 8 October 2022

会場：大阪公立大学 杉本キャンパス 法学部棟3階730教室
（〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138）

Venue: Room 730, Faculty of Law Building 3F, Sugimoto Campus, Osaka Metropolitan University (3-3-138 Sugimoto, Sumiyoshi-ku, Osaka, 558-8585)

*当日は会場となる法学部棟の外壁その他の工事の実施期間となっています。当日の工事はありませんが、ピロティ内をはじめ仮囲い内（工事エリア）は通行禁止区域となります。ご不便をおかけしますが、法学部棟1階玄関に入られる際は、添付地図の矢印に従ってください。

開催形式：標記の会場で対面形式のみの開催です。オンラインでの同時開催はいたしません
が、当日の様子は後日「ヴァーチャル・カンフェランス」としてディケンズ・フェロウシップ
日本支部HP上に掲載いたします。

-
- | | |
|-------------|---|
| 13:00-13:30 | 理事会 Board of Trustees Meeting
(法学部棟4階408号室英文学部生指導室) |
| 13:00 | 開場 (法学部棟3階730教室) |
| 13:40 | 開会の辞 Welcome Address
松本靖彦 (ディケンズ・フェロウシップ日本支部長)
Yasuhiko Matsumoto (President, The Japan Branch of the Dickens Fellowship) |
| 13:45-14:15 | 総会 General Meeting |

- 14:20- **第1部 研究発表 Short Paper Session**
司会：金山亮太（立命館大学）
Ryota Kanayama (Ritsumeikan University)
- 14:20-15:00 **研究発表1 Short Paper 1**
発表：一瀬真平（北海道大学大学院）Shinpei Ichinose (Hokkaido University)
「『ハーパーズ・ウィークリー』における『大いなる遺産』」
“Great Expectations in Harper’s Weekly”
- 15:05-15:45 **研究発表2 Short Paper 2**
発表：筒井瑞貴（大阪教育大学）Mizuki Tsutsui (Osaka Kyoiku University)
「『リトル・ドリット』における秘密と好奇心」
“Secrecy and Curiosity in *Little Dorrit*”
- 16:05-17:10 **第2部 講演 Lecture**
司会：松本靖彦（東京理科大学）Yasuhiko Matsumoto (Tokyo University of Science)
講師：新野緑（ノートルダム清心女子大学）Midori Niino (Notre Dame Seishin University)

「ディケンズと群衆」
“Dickens and the Crowd”
- 17:15 **閉会の辞 Closing Address**
玉井史絵（ディケンズ・フェロウシップ日本支部副支部長）
Fumie Tamai (Vice President, The Japan Branch of the Dickens Fellowship)
- 18:15-20:15 **懇親会 Convivial Party**
会場：スカイレストラン エトワール／都シティ 大阪天王寺ホテル 17F
懇親会会費（当日支払）：6,500円（料理・ソフトドリンクのみ。アルコール飲料は別途、個別にご注文お願いします。）

*感染症拡大防止対策のため、以下のような条件を設けた上で懇親会を開催します。

- ・1つのテーブルに最大4名まで、座席指定のマスク会食とする。
- ・参加可能上限人数を設定し、申し込み先着順で受付を終了する。
- ・申し込み方法の詳細は会員向けMLにてご案内します。

*懇親会会費は学会会場受付にてお支払いください。釣銭のないようにご準備ください。ご協力のほどお願いいたします。

第1部 研究発表 Short Paper Session

研究発表1 Short Paper 1

「『ハーパーズ・ウィークリー』における『大いなる遺産』」
“Great Expectations in Harper’s Weekly”

一瀬真平

本発表では、アメリカにおけるディケンズ作品の文化的意義について、『大いなる遺産』と『ハーパーズ・ウィークリー』の関係に注目して考えていきたい。アメリカ内部の対立が激化し南北戦争が始まった頃、『大いなる遺産』は、米国内で多くの読者を抱えていた政治雑誌『ハーパーズ・ウィークリー』に連載されていた。この雑誌は、戦争色に染まり、戦争関連の記事に溢れていた。つまり、『大いなる遺産』は、それらの記事に囲われるようにしてこの雑誌に掲載された。

『大いなる遺産』は、一見南北戦争とは関係の薄い作品である。しかし、かつて南部の奴隷制を糾弾した作家によるこの作品が戦時期の北部支持の雑誌に掲載されたことは興味深い巡り合わせのように映る。本発表は、この小説と掲載雑誌の政治的スタンスとの間の親和性を検討する。南北戦争時期のアメリカで流通した文学作品は、文化的観点から関心を集めてきた。戦争のまさに勃発時に『ハーパーズ・ウィークリー』に載っていた『大いなる遺産』も、その文脈において重要な意義を孕んでいたのではないだろうか。

研究発表2 Short Paper 2

「『リトル・ドリット』における秘密と好奇心」
“Secrecy and Curiosity in *Little Dorrit*”

筒井瑞貴

ロンドンを歩いていけば誰もがニューゲート監獄に「名状しがたい好奇の念(“an indescribable feeling of curiosity”）」を覚えて内部を垣間見ようとしたことがあるはずだと、ディケンズは『ボズのスケッチ集』において述べている。ここには、閉ざされた空間の中に個人を隔離し孤絶させるはずの「牢獄」がかえって外部の他者の関心を喚起し、好奇の視線を誘発することになるという、一種の逆説が提示されているように思われる。『リトル・ドリット』においては、個人の内面や秘密がしばしば比喩的な「牢獄」の中に隠匿されているが、それらに対して他の登場人物が向ける「好奇心(curiosity)」がどのような意味を持ちうるのかを考察したい。

第2部 講演 Lecture

ディケンズと群衆 “Dickens and the Crowd”

新野緑

ディケンズがロンドンの、とりわけそこに集まる人々の群れを自身の創作の原動力とし、彼らを作品の中でしばしば描いていることはよく知られている。もちろんロンドンの群衆を創作のモチーフとするのはディケンズだけではない。たとえばディケンズ小説の挿絵も手がけた諷刺画家のジョージ・クルックシャンクや、フランス人画家のギュスターヴ・ドレも、ロンドンの街路にひしめく群衆を絵画という異なる表現手段で生き生きと描いている。群衆へのこうした強い関心の背後には、経済学者マルサスが指摘したような、産業革命後の19世紀イギリス、さらにヨーロッパ全土における人口の急激な増加があろう。しかし果たしてそれだけだろうか。ディケンズの群衆描写の諸相を辿りつつ、当時のロンドンの現実描写だけにとどまらない、その特質と意義を探ってみたい。

会場アクセス

大学 HP アクセスマップ→



大阪公立大学 杉本キャンパス
〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

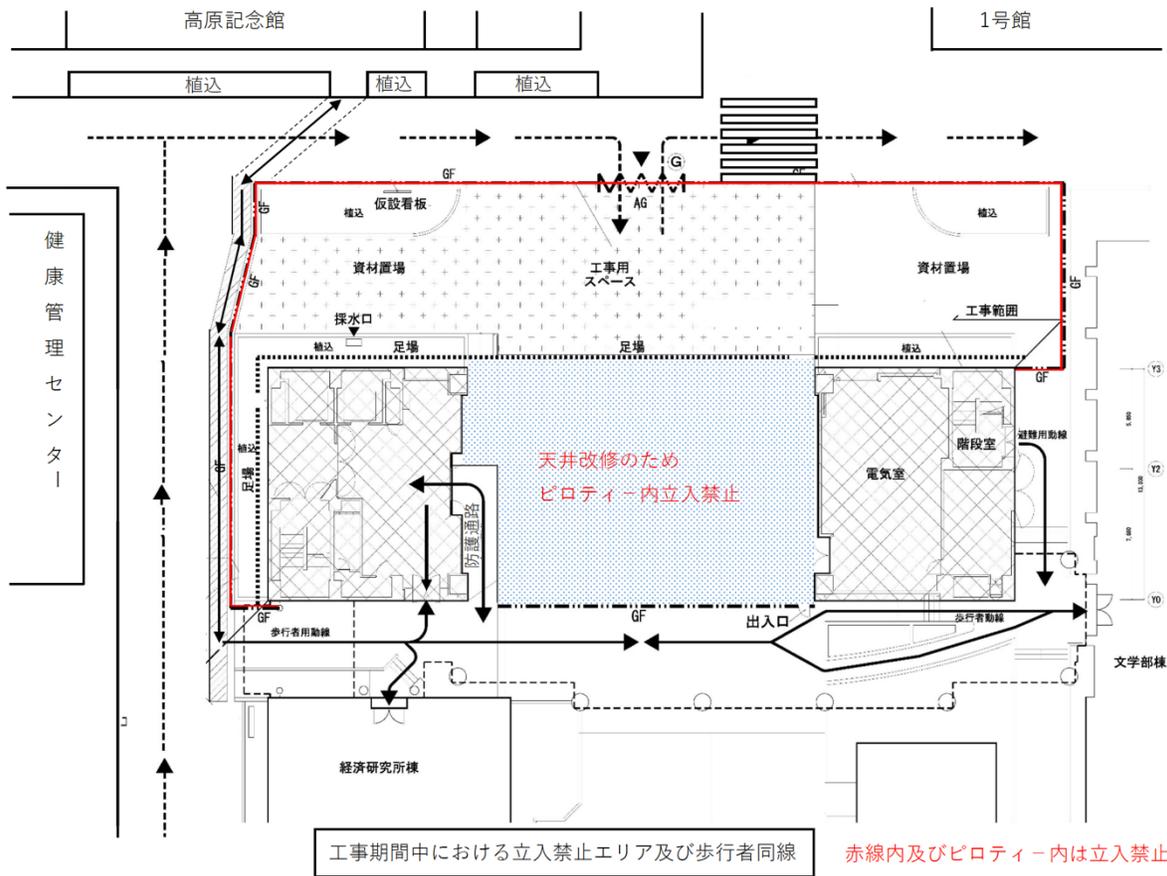
JR 阪和線「杉本町(大阪市立大学前)駅」下車、東口すぐ
地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車、4号出口より南西へ徒歩約15分





大会会場
【法学部棟 3階】 730 教室

理事会会場
【文学部棟 4階】 408 号室 英文学部生指導室
 *法学部棟 3階と文学部棟 4階は渡り廊下でつながっています。



懇親会会場アクセス

都シティアクセスマップ→



都シティ 大阪天王寺
〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町 1-2-8
TEL: 06-6628-3200

JR（環状線・阪和線・大和路線）、近鉄南大阪線、地下鉄（御堂筋線・谷町線）が直結

